

5 - 3 東海地方の微小地震の分布 (1987年11月1日～1988年4月30日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District
(November 1, 1987 - April 30, 1988)

名古屋大学 理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1987年11月1日より1988年4月30日までの6ヵ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

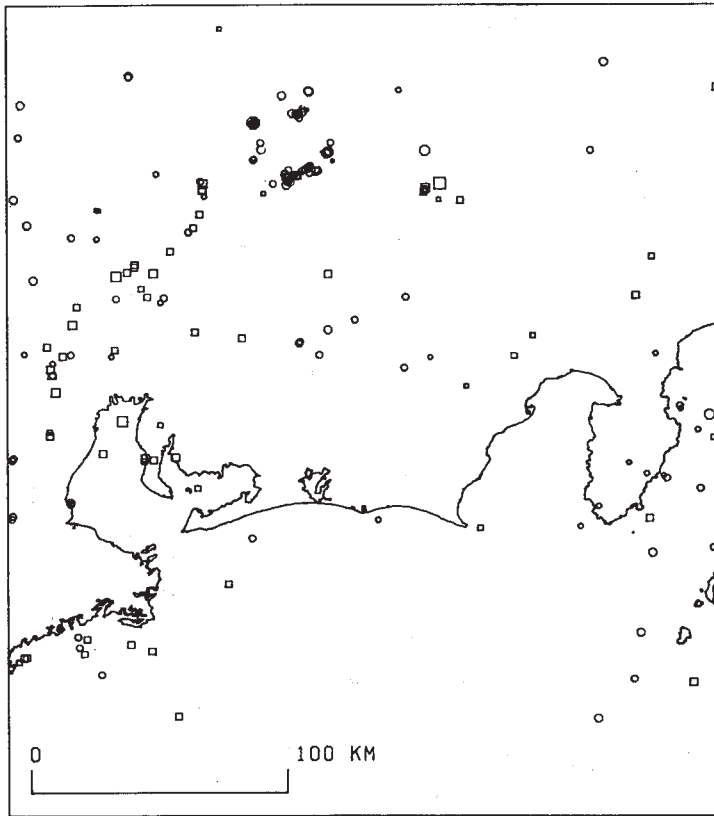
第1図は1987年11月1日より1988年4月30日までの6ヵ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20 km以浅に発生している地震の震央を3ヵ月づつの期間に分けて示したものである。第2図は同じ期間に20 kmから80 kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 伊豆東方沖では1987年5月16日以降は静穏な状態が続いていたが1988年2月14日から24日にかけて20日のM 4.7を含む活動が見られ、その後は鎮静化している。
- (2) 長野県西部地震の余震は依然として続いているが、この期間では1988年4月16日のM 3.4の地震が最大であった。
- (3) 1988年12月18日飛騨地方にM 4.6の地鰻があった他、中部・東海地域には特に顕著な活動は見られなかった。
- (4) 1987年11月から1988年2月にかけて愛知県東部および静岡県西部の上部地殻には殆ど地震活動が見られなかった。1978年5月の観測開始以来この地域でこれほど長い空白期は見られなかったが1988年3月からは平常の状態に戻っている。

参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布 (1987年5月1日～1987年10月31日), 連絡会報, **39** (1988), 218 - 220.

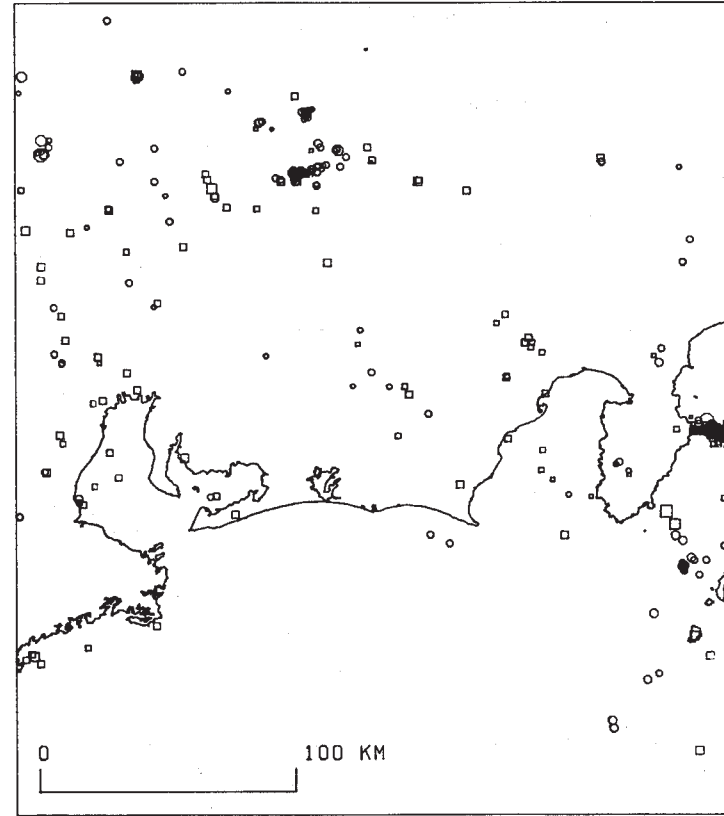


N = 214

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1987 11 1 - 1988 1 31



N = 339

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

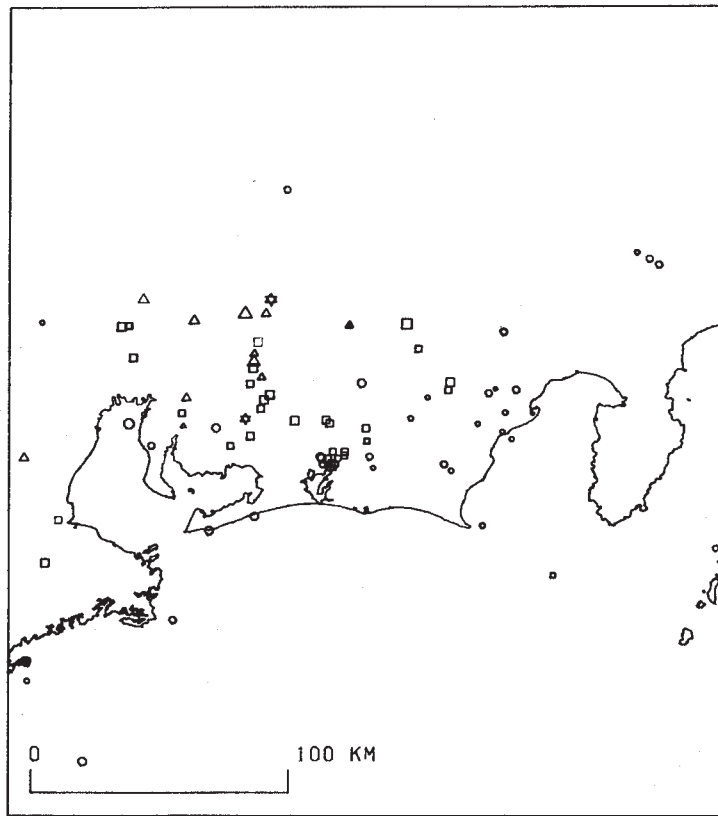
MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1988 2 1 - 1988 4 30

(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1987年11月1日~1988年4月30日) 震源の深さが20 km以浅のもの

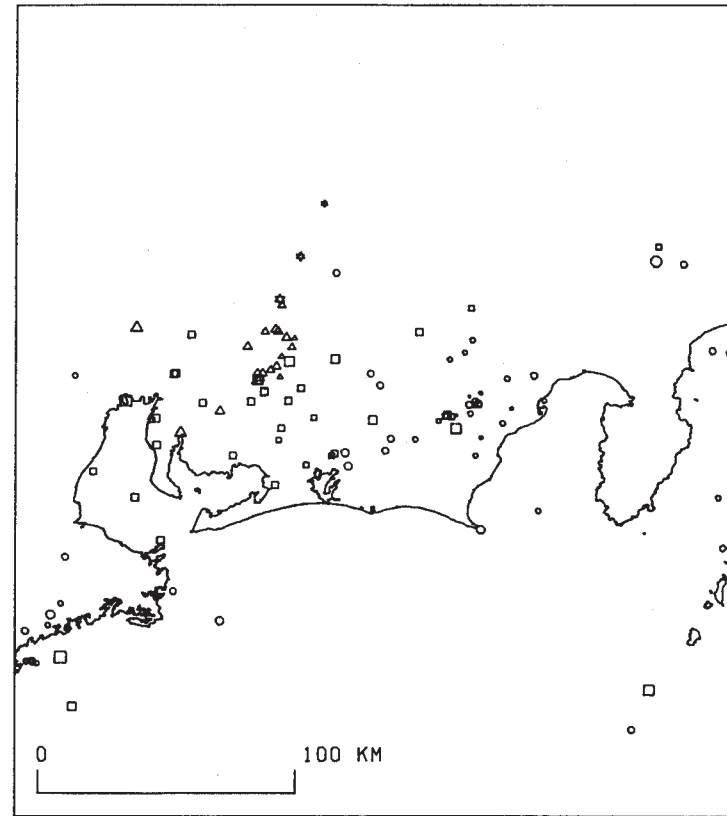
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (Nov. 1, 1987 - Apr. 30, 1988) shallower than 20 km.



N = 96

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1987 11 1 - 1988 1 31



N = 117

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1988 2 1 - 1988 4 30

(NAGOYA UNIV)

第2図 微小地震の分布 (1987年11月1日～1988年4月30日) 震源の深さが20 kmから80 kmのもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (Nov. 1, 1987 -Apr. 30, 1988) deeper than 20 km.